聖隷クリストファー大学大学院

SEIREI CHRISTOPHER UNIVERSITY GRADUATE PROGRAMS

隣人愛と知の技で 共に生きる社会の実現へ

［博士前期課程］［博士後期課程］

- 看護学研究科
- リハビリテーション科学研究科
- 社会福祉学研究科

2025

大学院案内

建学の精神

生命の尊厳と隣人愛

「隣人愛」とは、「自分のようにあなたの隣人を愛しなさい」という聖書の教えに示された愛の心です。聖隷学園は、創立以来この隣人愛と生命の尊厳を基本理念として、保健医療福祉分野の専門職の育成に取り組んできました。

その原点は、1930年に浜松のクリスチャンの若者たちが建てた結核患者のための小さな病舎にさかのぼります。目の前で苦しんでいる人のために、自分自身が感染するかもしれないという状況のなかで無償の愛を捧げたこの行いが、今日、日本有数の医療・福祉・教育集団となった聖隷グループのすべての事業の始まりなのです。

混迷する現代社会のなかで、人と共にあり、その不安や苦痛、悲しみを理解し、共に生きることを人生の喜びとする。聖隷クリストファー大学では、先人たちによって示された愛と奉仕の精神を受け継ぎ、地域に貢献し、国際社会においても活躍できる専門職を育成しています。

長谷川 保 直筆のレリーフ（聖隷歴史資料館内）

聖隷の創立者の一人、長谷川保は聖隷福祉事業団の理事長、会長、聖隷学園の理事長、学園長を歴任。
生涯を通じて無私・無欲を貫き、現在の聖隷の姿「医療」「福祉」「教育」の骨格づくりと方向付けを行いました。

学長からのメッセージ

本学大学院は、建学の精神であるキリスト教精神に基づく「生命の尊厳と隣人愛」に裏付けられた人間性の上に、高度の専門的な知識と技術を備えた高度専門職業人、研究・教育者の育成と、アジアを中心とした保健医療福祉の教育研究の拠点形成をめざしています。

博士前期課程では、倫理性と広い視野に立った学識、研究と実践の能力を有し、組織のリーダーとして活躍し得る、実践的な高度専門職業人を育成します。また博士後期課程では、より高度の専門性を基に自立した研究と学術活動を行い、学問分野の発展を担うとともに、国際的にも活躍し得る研究・教育者を育成します。

大学院生の皆さんが、保健医療福祉の未来を担う創造的かつ革新的な知の創造と技術の開発をめざし、また高い倫理性を備えた高度専門職業人、研究・教育者に成長されることを願っています。

聖隷クリストファー大学
学長 大城 昌平

CONTENTS

建学の精神・学長からのメッセージ ―― P2
大学院の目的・大学院の構成 ―― P3
研究科の紹介 ―― P4
看護学研究科 ―― P5
リハビリテーション科学研究科 ―― P11
社会福祉学研究科 ―― P16
研究の流れ（3研究科共通） ―― P19
学びを支えるサポート体制 ―― P20
充実した学修・研修環境 ―― P22
TOPICS・アクセス ―― P23

〈ホームページ紹介〉

大学院ホームページに、カリキュラムや履修方法、時間割、入試日程などを掲載しています。

大学院の目的

聖隷クリストファー大学大学院は、建学の精神であるキリスト教精神による「生命の尊厳と隣人愛」に基づき、看護学、リハビリテーション科学、社会福祉学の、高度かつ専門的な理論および応用を教授研究し、深奥な学識と研究能力を養い、保健医療福祉に関わる専門教育の向上・発展に寄与するとともに人々の健康・安寧と福祉に貢献することを目的とする。

（大学院学則第1条）

大学院の構成

取得できる学位
- ■博士前期課程 修士（看護学・リハビリテーション科学・社会福祉学）
- ■博士後期課程 博士（看護学・リハビリテーション科学・社会福祉学）

看護学研究科

分野	領域	
看護学	基礎看護学	看護管理学
	地域看護学	在宅看護学 ※1
	老年看護学	精神看護学
	慢性看護学	急性看護学
	がん看護学	ウィメンズ・ヘルス看護学 ※2
	助産学 ※2	小児看護学
	プライマリケア看護学	

※1 博士後期課程は地域看護学
※2 博士後期課程はリプロダクティブ・ヘルス看護学

リハビリテーション科学研究科

分野	領域	
理学療法学	理学療法科学	理学療法開発学
作業療法学	作業療法科学	作業療法開発学
言語聴覚学	言語聴覚障害学	摂食嚥下障害学

社会福祉学研究科

分野	領域
社会福祉学	社会福祉・ソーシャルワーク
	介護福祉 ※3
	子ども家庭福祉

※3 博士後期課程は高齢者福祉

キリストを運ぶ姿勢と、深奥をきわめる研究

「大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。」（学校教育法99条）

大学院では、科学的研究の「深奥をきわめる」ことが問われます。人々の目に隠されている真理を、飽くなき調査・研究と精密な理論構築をもって世に打ち出し、人々の救いや文化の進展に繋げていく事に、大学院の面目があります。

聖隷の創立者である長谷川保は三方原の土地購入時の記録を『夜もひるのように輝く』の中に残しています。「新しい土地」（p.88以下）との題で、最終的には慈善活動家である賀川豊彦からの献金運動の提唱と協力に拠って実現するのですが、それ以前から長谷川保本人による「広範な土地の渉猟」「金額の調査」「迫害時の対策としての公道の重要性」「川の存在」「風を避けられる谷間の土地活用」といった当時の結核患者の状況を鑑みての調査があり、さらに県や地域の組合の担当者との継続的な交渉や、情報交換があった様子も描写されています。

聖隷学園宗教部主任
キリスト教センター長
社会福祉学研究科 准教授

仲 義之

聖隷にはこのような粘り強さの伝統があります。困難を前にしても神に信頼しつつ、入念な準備や調査、交渉、経済的裏付けを着実に積み重ねる「レジリエンス（resilience）」とも形容すべき内実です。殉教者クリストファーが、重い少年の姿をしたキリストを川の向こう岸まで運び切ったように、困難を乗り越え、隣人に救いを届けるための「深奥をきわめる」粘り強い研究者が多く育成されるよう、期待され、祈られています。

クリストファーのモザイクタイルレリーフ（3号館1階）

キリスト教センター

研究科の紹介

看護学研究科
博士前期課程
博士後期課程

- 複雑・多様な医療ニーズに対応できる、質の高い看護専門職者の育成
- 社会の要請に対応した6つの高度実践看護師教育課程の設定
- 多職種連携・協働を基盤とする高度専門職業人の育成

P5

リハビリテーション科学研究科
博士前期課程
博士後期課程

- 21世紀リハビリテーション科学理論・技術の展開
- 現代社会の要請に応える優れた授業科目の提供
- 保健医療福祉の連携・協働を実現する取り組み

P11

社会福祉学研究科
博士前期課程
博士後期課程

- 社会的ニーズの変化に対応し高度な知識と広範な視点をもつ社会福祉専門職の養成
- 保健医療福祉の融合と連携の実現をめざす

P16

学びの4つの特色

1 働きながら学べる

有職者の方が在職のまま就学できるよう、博士前期課程2年間の課程を3年間で、博士後期課程3年間の課程を4年間で修了する長期在学コースを設けています。

また、講義・研究指導は夜間や土曜日など、可能な限り有職者の方が受けやすい時間帯に設定し、講義形式の授業を遠隔システムにより受講できる機会も設けています。

2 キャリアアップにつながる学び

看護学研究科博士前期課程の「高度実践看護コース」では、6領域における専門看護師の育成や、NP資格取得をめざす「プライマリケアNPプログラム」を行っています。

リハビリテーション科学研究科博士前期課程には「教育学コース」を設け、教員や管理職をめざす方を支援。また2025年より、高度な臨床実践ができるリハビリテーション専門職育成のための「高度実践リハビリテーションコース」が開始予定です。

社会福祉学研究科では職場での課題解決のために進学する方が多く、豊富な実践経験を持つ担当教員の指導によって専門職としての力をさらに高めることができます。

3 充実した学修・研究環境

保健・医療・福祉施設に囲まれた立地を生かし、聖隷グループの総合病院・施設において第一線で活躍している医師や専門職者が担当する講義や演習があるため、最新の情報に基づいた研究を進めることができます。

また、大学5号館5・6階を大学院エリアとし、ゼミ室のほか、研究室・談話室・休憩室などの施設・設備が整っています。特に大学院生研究室は24時間セキュリティシステムに守られ、平日夜間や休日を問わず、安全かつ快適な環境で自由に学修・研究することができます。図書館も5号館にあり、大学院生は図書館閉館時でも必要に応じて図書館に入退出し、資料閲覧、図書の貸出、文献複写等の利用ができます。

4 学びを支えるサポート体制

短期大学等を卒業して学士の学位を取得していない方であっても、卒業後、他の教育機関での学修経験や一定の臨床経験、あるいは教職経験を経て業績等がある方には、学士の学位がなくても入学資格審査を受けて受験の機会が得られる「入学資格審査」があります。

大学院の正規の授業を開放する「科目等履修」や、興味のある研究分野の教員と共に1年間研究に携わることができる「研究生制度」などもあり、学ぶ意欲をサポートしています。

看護学研究科

博士前期課程
■標準修業年限／2年（長期在学コースの場合3年）
■学位の種類／修士（看護学）

博士後期課程
■標準修業年限／3年（長期在学コースの場合4年）
■学位の種類／博士（看護学）

concept 1 複雑・多様な医療ニーズに対応できる、質の高い看護専門職者の育成

concept 2 社会の要請に対応した6つの高度実践看護師教育課程の設定

concept 3 多職種連携・協働を基盤とする高度専門職業人の育成

研究科長メッセージ

研究科長 樫原 理恵

多様な社会的ニーズに応える高度実践看護職の育成

看護学研究科は建学の精神に基づく「生命の尊厳と隣人愛」に基づき、社会の変化に伴う高度かつ専門的な看護実践者の育成をめざしています。日々の看護実践や教育活動の中で生まれた気づきや課題について、論理的な思考を持ち、他者と協働して学修することができます。本学では長期履修制度や科目等履修制度を設け、在職しながら学びを継続する環境を整えています。大学院への進学は、自分自身の看護への大きなチャレンジです。2024年度には住民の健康を守るための医療提供の不足という課題に対応するための看護人材を育成するため、プライマリケアNP教育課程を開設しました。

TOPIC

本学の看護学研究科は建学の精神に基づく「生命の尊厳と隣人愛」に基づき、看護学分野におけるより良い実践に必要な課題を明確にするとともに、課題解決に向けて探求する能力を育成するための修士論文コース、社会の変化に伴う高度かつ専門的な看護実践者の育成をめざした、地域に必要な看護師を育成する高度実践看護コースが設置されています。

本学の高度実践看護コースは、2006年度にがん看護学領域でCNS：専門看護師の育成が開始され、現在は6つの看護学領域のCNSプログラムを設置しています。2024年度には高度実践看護コースに、地域で活躍できる看護人材の育成をめざして新たにプライマリケアNPプログラムを開設しました。

高度実践看護コース

専門看護師（CNS）プログラム

CNSに求められる卓越した看護実践力、相談、調整、倫理調整、教育、研究を遂行するための能力を獲得するための教育内容を準備し、本課程終了後にはCNSの受験資格を得ることができます。

プライマリケアNPプログラム

NPに求められる臨床判断、治療の管理、治療効果の判断を自律的に実践する能力、医師並びに多職種と連携・協働する能力、対象者の意思決定を尊重しながら医療・看護を実践する能力、実践課題を解決するための研究能力を育成するための講義・演習・実習科目を準備し、本課程修了時にNPの受験資格を得ることができます。

高度実践看護コース設置領域

専門看護師（CNS）プログラム	在宅看護学領域　老年看護学領域　慢性看護学領域 急性看護学領域　がん看護学領域　小児看護学領域
プライマリケアNPプログラム	プライマリケア看護学領域

教育課程（博士前期課程）

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">科目</th><th rowspan="2">区分</th><th rowspan="2">修士論文コース</th><th colspan="2">高度実践看護コース</th></tr>
<tr><th>専門看護師プログラム</th><th>プライマリケアNPプログラム</th></tr>
<tr><th colspan="2">単位数</th><th></th><th></th><th></th><th></th></tr>
<tr><td>共通科目</td><td>12科目から選択（p.22）</td><td>3研究科共通</td><td rowspan="3">10単位以上</td><td rowspan="3">14単位以上</td><td rowspan="2">10単位以上</td></tr>
<tr><td>基盤科目A</td><td>看護理論※、看護研究方法※、看護倫理、
看護管理論、看護政策論、
看護コンサルテーション論　※必修科目</td><td rowspan="3">看護学研究科共通</td></tr>
<tr><td>基盤科目B</td><td>フィジカルアセスメント、病態生理学、臨床薬理学</td><td></td></tr>
<tr><td>基盤科目C</td><td>臨床病態生理学・疫病概論、臨床推論、
フィジカルアセスメント特論I・II、
臨床薬理学特論I・II、医療安全・特定行為実践特論、
特定行為共通科目演習</td><td></td><td></td><td>10単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">専門科目</td><td>専攻する領域の特論、特論演習、特論実習</td><td rowspan="2">各領域</td><td>8単位以上</td><td rowspan="3">24単位以上</td><td rowspan="3">33単位以上</td></tr>
<tr><td>専攻する領域以外の特論、または看護技術開発</td><td>2単位以上</td></tr>
<tr><td>特別研究（修士論文コース）、
課題研究（高度実践看護コース）</td><td>個別課題</td><td>8単位</td></tr>
<tr><td colspan="3">修了に必要な単位数</td><td>32単位以上</td><td>38単位以上</td><td>55単位以上</td></tr>
</table>

領域の紹介

■基礎看護学領域

看護活動の拡大に伴う安全で質の高い看護ニーズに応えるために、基盤となる理論と技術開発を主体的に学修します。基礎看護学に関する理論を精査・探究し、看護の対象となる人々の関係性や看護実践技術の構造を検証し、看護基礎教育および看護実践技術に関する評価手法とその開発を自立して研究できる能力を修得します。

■看護管理学領域

基礎学習として、一般システムの理論や看護システムの特性および構成要素を修得します。それらの学習を基に、看護システム（医療システムにおける看護システム、看護サービスの質向上、看護提供システムなど）および看護システムを構成する各要素について調査・分析・検討を行い、論文を作成します。

■地域看護学領域

公衆衛生看護学や学校保健の立場から、地域包括ケアシステムを支え、発展させ、地域で暮らす人々の健康や社会経済環境及び生活の質を高める実践力をもつ看護職の育成を目標とします。博士前期課程では、論理的な思考や深い知識、研究法を学び、高度な実践者の育成をめざします。博士後期課程では、発見した課題を研究し、独立して研究できる人材の育成をめざします。

■在宅看護学領域 ※1

博士前期課程では、病いや障がいがあっても、人々が望む環境で自分らしく暮らしていく営みを支える看護実践を探求することを目的としています。博士後期課程では、在宅看護学の学術領域や実践領域に資する独創性ある研究課題に取り組み、課題解決のための理論や方法を身につけ、研究者として自立できる研究能力の修得をめざします。

■老年看護学領域

高齢社会の問題を広い視野でとらえ、高齢者の生活と健康を支える看護の専門性の拡大、さらなる発展を探求するために必要な、知識・技術・研究技法を修得することを目的とします。博士後期課程では、研究プロセス、研究成果を通して高齢者ケアの発展に寄与することをめざします。

■慢性看護学領域

慢性的な病気や障害とともに生活する人々に対して、質の高い看護ケアを提供するための知識・技術を修得することを目的とします。博士前期課程では、患者・家族の抱える問題を多面的に追及し高度専門的かつ倫理的な看護実践能力を修得します。博士後期課程では、複雑多様な問題状況の概念化、ケアモデルの開発をめざします。

■がん看護学領域

博士前期課程では、がん患者・家族のもつさまざまな問題を身体・心理・社会・霊的に広く深く探究し、QOLを高める高度専門的かつ倫理的な看護実践能力を修得します。博士後期課程では、がん患者の複雑多様に絡み合ったトータルペインや倫理的問題を多角的に解明し、問題解決のための理論や方法論、技法の開発をめざします。

■助産学領域 ※2

博士前期課程では、親の自立(自律)を通して、健全な子どもたちを次世代に繋げるために、助産を取り巻く現況と課題にかかわる知識を深め、助産師の責任・役割・専門性を探求し、研究の基礎的能力を修得します。博士後期課程では、女性がその人らしく生きるための生と性にかかわる多様性の探求と専門領域における課題解決のための理論や方法を身につけ、自立して研究を行える能力を修得します。

■プライマリケア看護学領域 ※3

プライマリケアNPプログラムでは、人口の高齢化のますますの進行、在宅で医療を必要とする療養者の増加、高度な医療ニーズの発生、医療関係職員の働き方改革などにより、住民の健康を守るための医療提供の不足という課題に対応するために必要な看護援助のあり方を探求できる人材の育成をめざしています。

■精神看護学領域

本領域ではすべての年齢の人々の精神的健康の増進や精神疾患を抱える人々、精神看護的アプローチを必要とする生活者への支援を検討します。博士前期課程では高度専門的知識を用いて人々の精神的健康を促進する能力を修得します。

■急性看護学領域

博士前期課程では、周術期や生命の危機的状態にある患者・家族が直面する課題を多面的に追及するとともに、質の高い急性期看護を提供するための高度専門的かつ倫理的な看護実践能力を修得します。博士後期課程では、クリティカルケアの現場で提供される看護を説明する理論の開発やよりよい看護方法の開発をめざします。

■ウィメンズ・ヘルス看護学領域 ※2

博士前期課程では、女性の健康問題やハイリスク周産期ケアの概念・理論に関する理解を深め、看護実践における研究課題に取り組むことを通して、基礎的研究能力を修得します。博士後期課程では、専門領域にかかわる高度な知識を深め、課題解決のための理論構築や技術開発の方法を身につけ、自立して研究を行える能力を修得します。

■小児看護学領域

博士前期課程では、成長・発達途上の子どもを理解し、子どもと親・家族の健康を増進するための看護援助を探求することを目的とします。博士後期課程では、さまざまな健康障害・障がいをもつ子どもと親・家族の抱える複雑多様な問題解決のための理論や方法などを身につけ、自立して研究できる能力の修得をめざします。

※1 博士後期課程は地域看護学領域
※2 博士後期課程はリプロダクティブ・ヘルス看護学領域
※3 プライマリケア看護学領域は博士前期課程のみ

教員紹介

※2024年5月時点の在籍教員と研究内容を紹介しています。2025年度は変更となる場合があります。

■基礎看護学領域　■看護管理学領域　■地域看護学領域　■在宅看護学領域　■老年看護学領域
■精神看護学領域　■慢性看護学領域　■急性看護学領域　■がん看護学領域　■ウィメンズ・ヘルス看護学領域
■リプロダクティブ・ヘルス看護学領域　■助産学領域　■小児看護学領域　■プライマリケア看護学領域

安田 智洋 教授 博士(理学)
Yasuda Tomohiro

研究キーワード　健康づくり、運動医科学
研究テーマ　健康長寿社会実現に向けた健康医療：予防から治療まで

佐久間 佐織 教授 博士(看護学)
Sakuma Saori

研究キーワード　看護技術、技術教育
研究テーマ　看護技術の熟達プロセスとその支援についての探求

炭谷 正太郎 准教授 博士(看護学)
Sumitani Shotaro

研究キーワード　看護技術、輸液、血管確保
研究テーマ　輸液や血管確保等、看護技術に関する研究

樫原 理恵 教授 博士(看護学)
Kashihara Rie

研究キーワード　看護管理、リーダーシップ
研究テーマ　看護管理者のサーバントリーダーシップの獲得

三輪 眞知子 教授 博士(学術)
Miwa Machiko

研究キーワード　行政、保健師、協働、地域づくり
研究テーマ　自治体住民と行政が協働した地域づくりに関する研究

西川 浩昭 教授 博士(保健学)
Nishikawa Hiroaki

研究キーワード　健康状態の定量的評価、要因分析、多変量解析法
研究テーマ　健康状態の定量的評価法の検討

池永 理恵子 教授 博士(保健看護学)
Ikenaga Rieko

研究キーワード　発達障害、養護教諭の支援
研究テーマ　発達障害のある子どもへの養護教諭の支援に関する研究

江口 晶子 教授 博士(看護学)
Eguchi Akiko

研究キーワード　親子保健、保健師、発達障害
研究テーマ　発達障害児をもつ保護者への保健師の支援技術に関する研究

水田 明子 教授 博士(医学)
Mizuta Akiko

研究キーワード　保健師、健康な社会づくり
研究テーマ　子どもの貧困と健康格差対策、家族介護者のメンタルヘルス

酒井 昌子 教授 博士(看護学)
Sakai Masako

研究キーワード　訪問看護、終末期ケア、意思決定支援
研究テーマ　在宅非がん終末期患者の看護、在宅ケアアウトカムに関する研究

山村 江美子 教授 博士(看護学)
Yamamura Emiko

研究キーワード　在宅療養者・家族への家族看護
研究テーマ　在宅で看取りを行う家族に対する家族看護の探求

山田 紀代美 教授 博士(医学) Yamada Kiyomi	研究キーワード	認知症高齢者、加齢性難聴、就業高齢者、転倒事故
	研究テーマ	加齢性難聴あるいは認知症高齢者の看護に関する研究
木村 暢男 准教授 博士(介護福祉・ケアマネジメント学) Kimura Nobuo	研究キーワード	認知症ケア、ケアマネジメント
	研究テーマ	地域包括ケアシステムにおける認知症高齢者の生活支援の研究
内藤 智義 准教授 博士(医学) Naito Tomoyoshi	研究キーワード	認知症、排泄ケア
	研究テーマ	認知症高齢者の慢性便秘マネジメントに関する研究
入江 拓 教授 修士(人間行動学、学術) Irie Taku	研究キーワード	社会的養護、里親、メンタルヘルス
	研究テーマ	要保護児童の養育者のメンタルヘルスと支援システムの研究
小平 朋江 准教授 博士(看護学) Kodaira Tomoe	研究キーワード	統合失調症をもつ人、語り
	研究テーマ	統合失調症をもつ人の語りを手がかりにした研究
清水 隆裕 准教授 博士(看護学) Shimizu Takahiro	研究キーワード	感情体験、看護対応、看護チーム
	研究テーマ	精神科看護師チームの機能支援に関する研究
河口 てる子 教授 博士(保健学) Kawaguchi Teruko	研究キーワード	患者教育、患者心理、概念化
	研究テーマ	看護における教育的関わりの概念化、理論構築、尺度化
和田 由樹 教授 博士(看護学) Wada Yuki	研究キーワード	慢性看護、セルフケア
	研究テーマ	セルフケアマネジメント力を促進する看護援助に関する研究
乾 友紀 准教授 博士(看護学) Inui Yuki	研究キーワード	急性期看護、合併症、予防
	研究テーマ	急性期患者の合併症を予防するための看護介入に関する研究
大石 ふみ子 教授 博士(看護学) Oishi Fumiko	研究キーワード	がん看護、がん治療の有害事象
	研究テーマ	がん患者・家族の心理的ケア、治療の有害事象に関する研究
藤浪 千種 教授 博士(看護学) Fujinami Chigusa	研究キーワード	がん看護、チーム医療
	研究テーマ	がん患者を対象とした看護方法論とチーム医療に関する研究
藤本 栄子 教授 博士(看護学) Fujimoto Eiko	研究キーワード	早産児、母子関係、母乳育児支援
	研究テーマ	ハイリスク新生児と母親への周産期・育児期を通した支援
熊澤 武志 教授 博士(医学) Kumazawa Takeshi	研究キーワード	バイオマーカー、母乳、質量分析
	研究テーマ	母乳に含まれる新規バイオマーカーの検索と分子機構の解明

※2024年5月時点の在籍教員と研究内容を紹介しています。2025年度は変更となる場合があります。

室加 千佳 准教授 博士(看護学) Muroka Chika	研究キーワード	NICU、在宅移行、ヘルスリテラシー
	研究テーマ	NICU在宅移行時の医療的ケア児の家族支援研究
久保田 君枝 教授 博士(医学) Kubota Kimie	研究キーワード	低出生体重児、母体栄養、体組成
	研究テーマ	妊婦の栄養と母児の体重に関する研究
市江 和子 教授 博士(医学) Ichie Kazuko	研究キーワード	小児看護学、重症心身障がい児
	研究テーマ	小児看護全般、成長障害児・重症心障害児と親・家族への支援
宮谷 恵 教授 博士(看護学) Miyatani Megumi	研究キーワード	医療的ケア、在宅療養、家族支援
	研究テーマ	医療的ケアを必要とする子どもと家族への支援に関する研究

修了生の研究テーマ

博士前期課程	●早期中堅看護師の獲得する能力に影響を与える要因分析
	●急性期病院における看護師と看護補助者の協働～全身清拭に焦点をあてて～
	●積極的な育児をしている父親の生活と育児の調整の有様
	●糖尿病予防教室終了者の健康行動継続における内的様相
	●訪問看護師による終末期高齢者を看取る配偶者の悲嘆への支援ー高齢者夫婦に焦点をあててー
	●高齢者に対するアドバンス・ケア・プランニング支援についての訪問看護師の思い
	●就労を継続している潰瘍性大腸炎患者の生活調整
	●再発を診断され経口分子標的薬治療を受ける乳がん患者の体験
	●在日ブラジル人産婦への助産ケアー助産師への聞き取りからー
	●訪問看護師と医療的ケアが必要な障害児の母親との関係づくり
博士後期課程	●精神科カンファレンスにおいてメンバーの感情表出を促すマッピングシート活用プログラムの作成と有用性の検証 ー境界性パーソナリティ障害(BPD)の問題行動に焦点を当てた場合ー
	●終末期がん患者の療養場所選択における看護アドボカシー実践モデルの開発と評価
	●出生体重に関連する妊娠前後の影響因子の探索研究ー栄養と健康意識、体組成、握力からの分析ー
	●成人期発症1型糖尿病患者の心理的負担感を軽減するための対処法を促進する協働的パートナーシップによる看護介入プログラムの作成と評価
	●不登校生徒がフリースクールへの登校を機会に社会に歩みだすプロセス

修了生の声

看護を心から楽しめる組織づくりをしたい

看護管理に自信がなく自問自答していたとき、大学院で学ぶ面白さを語る先輩に惹かれ進学しました。大学院では凝り固まった自分に向き合うこと、これまで安易に使っていた言葉の意味を正しく深く理解することを学んだ時間でした。今後は看護を心から楽しめる組織づくりのお手伝いをしたいと思います。

博士前期課程
(修士論文コース 看護管理学領域)

池田 千夏さん
2021年度 修了
勤務先:
聖隷富士病院 看護部 安全管理室

がん看護専門看護師として

私は「がん看護専門看護師」の資格取得をめざして大学院進学を決めました。

大学院での3年間では、広い視点で真の課題をとらえ、解決に向かうための思考を培いました。今後は、患者さんやご家族の生活の質の向上をめざして、がん看護専門看護師としての役割を発揮したいと考えております。

博士前期課程
(高度実践看護コース がん看護学領域)

箕浦 侑加さん
2021年度 修了
勤務先:
浜松医科大学医学部附属病院
看護部 腫瘍センター

リハビリテーション科学研究科

博士前期課程
■標準修業年限／2年（長期在学コースの場合3年）
■学位の種類／修士（リハビリテーション科学）

博士後期課程
■標準修業年限／3年（長期在学コースの場合4年）
■学位の種類／博士（リハビリテーション科学）

concept 1 21世紀リハビリテーション科学理論・技術の展開

concept 2 現代社会の要請に応える優れた授業科目の提供

concept 3 保健医療福祉の連携・協働を実現する取り組み

研究科長メッセージ

研究科長 柴本 勇

科学的思考力と実践力を備えた高度専門職者の育成

リハビリテーション科学研究科では、卓越した科学的思考力や実践力を兼ね備え、新たなる知の創造をし続ける専門職者を育成します。博士前期課程では、高度な専門知識、臨床力、研究力、教育力を養います。大学院生の進学目的に沿うよう3つの履修モデルを用意しています。また、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科と単位互換協定により、幅広い科目履修を可能にしています。博士後期課程では、自立した研究遂行力と高い学識を養います。高い倫理観と使命感をもち、リハビリテーション科学分野をリードする専門職者を育成します。

TOPIC

■自身の目的に沿ったコース選択（博士前期課程）

博士前期課程では、以下の3コースから自身の学修目的に合わせ選択できます。

	目的	特長
研究コース	研究手法を学び、臨床疑問を解決する。基礎研究を実施する。	研究法や倫理学など、科学的な思考と実践を学ぶ科目を受講することができる。
教育学コース	将来教育者や管理職をめざすために、教育やマネジメントを学ぶ。	教育学・インストラクショナルデザインなど教育・管理の科目を受講することができる。
高度実践リハビリテーションコース	より高いレベルの臨床力を学び社会貢献する。	演習や実習を受講し、臨床力豊かな教員から直接臨床を学ぶ。

※各コースの定員はありません。自身の目的に合わせて選択していただけます。
※すべてのコースが履修モデルとなります。自身の目的に合わせた科目履修をすることで、大学院の学修が明確になります。

■「投稿論文による学位審査」など幅広い学位審査の機会（博士後期課程）

これまでの学位審査に加えて、2024年度から投稿論文による学位審査を開始しました。在学中に雑誌投稿した論文を博士論文として審査する方法です。医学系研究科で採用されている審査方法を取り入れ、学位審査を待たずに論文投稿を可能にしました。

■国内外の連携大学との共同研究・共同教育（博士前期課程・博士後期課程）

アジアやアメリカの交流協定締結大学との共同研究や共同教育を推進しています。留学しなくても、本学で学びながら海外との共同研究ができます。また、長崎大学大学院医歯薬学研究科とは単位互換協定に基づき、互いの授業を履修し取得単位として認めます。

■博士前期課程から博士後期課程への学内推薦制度（博士前期課程）

本学博士前期課程修了者は博士後期課程に推薦する制度があります。この制度を用いると入学試験では学力試験を課さずに博士後期課程に進学することができます。

教育課程（博士前期課程）

科目		区分	単位数
共通科目	12科目から選択（p.22） ※教育学コース履修推奨科目：教育方法学特論、教育工学特論	3研究科共通	12単位以上
基盤科目	リハビリテーション研究入門、内部障害リハビリテーション学 生活環境リハビリテーション学、嚥下障害リハビリテーション学 インストラクショナルデザイン特論※、新生児リハビリテーション学● 発達障害リハビリテーション学●、疼痛科学リハビリテーション学● スポーツリハビリテーション学●、リハビリテーション教育演習※ ※教育学コース推奨科目 ●高度実践リハビリテーションコース推奨科目	リハビリテーション科学研究科共通	
専門科目	専攻する領域の特論、特論演習	各領域	6単位
	専攻する領域以外の特論		4単位
	特別研究、課題研究（教育学コース）、 高度実践科目（高度実践リハビリテーションコース）	個別課題	8単位 12単位
		修了に必要な単位数	30単位以上

領域の紹介

■理学療法科学領域

解剖学、生理学、神経科学、運動学および運動生理学などの理学療法学分野の基本となる課題、理学療法士の新しい教育手法、教育効果を証明するための科学的な検証方法を学修します。博士前期課程の講義では、研究機器の測定方法、データの読み方および解析手法など、実験的研究で必要な技術について学修します。博士後期課程では、博士前期課程を踏まえ、国際社会でも活躍できる研究者ならびに高度専門職者を養成することをめざします。

■理学療法開発学領域

神経系、運動器系、内部系障害の理学療法について、科学的理論を背景とする検証技術を学修し、新たな理学療法の評価および治療法を開発する方法を学修します。博士前期課程の講義では、質的および量的研究、ケーススタディ、観察および介入研究などの臨床研究で必要な研究方法、効果検証を学修します。博士後期課程では、博士前期課程を踏まえ、国際社会でも活躍できる研究者ならびに高度専門職者を養成することをめざします。

■作業療法科学領域

作業療法は、「作業」が「人間の健康に寄与する」という信念から発展した分野です。この領域では、「人－作業－環境」の関係を、臨床とも結びつけて意味、機能、形態の側面から研究します。さらに、作業療法の歴史的変遷、作業療法諸理論についてその概念枠組み、評価法、実践的研究等について学びます。研究では各院生の疑問や周辺のテーマについて文献レビューから始め、研究計画書作成、データ収集、修士論文執筆へと進めます。博士後期課程では、博士前期課程で学び研究したことをさらに深く探求し博士論文を完成させます。

■作業療法開発学領域

作業療法に関する最新の研究動向に触れ、臨床への応用と解決すべき課題について検討します。研究対象は個人・家族・地域など、専門領域やテーマに応じてさまざまな設定が考えられるため、まずは関連領域の研究論文のレビューを通じて、現時点の到達点の確認、未解決の課題の発見をめざします。そして、研究疑問をどのように検証可能な形で表現するか、データに基づく分析とはどのようなものか、その結果をどのように読み解くのかなど、臨床研究の基本的要素を理解します。博士後期課程では、博士前期課程で学んだ研究方法論を知識基盤とし、実践的課題の吟味と解決方法を探求します。

■言語聴覚障害学領域

博士前期課程では、失語症、高次脳機能障害、聴覚障害に対する基礎研究や評価、検査法の研究開発を行います。また、さまざまな要因によって起こる障害に対する病態解析、さらに回復のメカニズムと言語聴覚療法（治療アプローチ）について研究します。科学的な視点を土台として、治療法の開発と実践ができる人材の育成をめざします。博士後期課程では、博士前期課程で学んだ最新知見を収集した上で分析し、新たな理論や臨床技術を開発します。

■摂食嚥下障害学領域

博士前期課程では、摂食嚥下障害学と発声発語障害学に関する最新知見や理論を学びます。具体的には、音声障害、発話障害、流暢性障害、摂食嚥下障害、拡大代替コミュニケーションについての研究を行っています。多分野との共同活動を通じて学際的な思考力と臨床力を養います。博士後期課程では、摂食嚥下障害と発声発語障害の評価治療法の開発、支援方法の開発、理論構築に向けた研究を担うことができる研究者、臨床家、教育者を育成します。同時に新たな知見を得て、学問の発展に貢献します。

教員紹介

※2024年5月時点の在籍教員と研究内容を紹介しています。2025年度は変更となる場合があります。

■理学療法科学領域　■理学療法開発学領域　■作業療法科学領域　■作業療法開発学領域
■言語聴覚障害学領域　■摂食嚥下障害学領域

矢倉 千昭 教授 博士（医学）
Yagura Chiaki

研究キーワード　介護予防、安全衛生、生活習慣
研究テーマ　高齢者の介護予防、企業の安全衛生管理、生活習慣病の予防

金原 一宏 教授 博士（リハビリテーション科学）
Kimpara Kazuhiro

研究キーワード　ペインリハビリテーション
研究テーマ　骨関節・神経疾患など慢性疼痛患者の評価・治療に関する研究

津森 伸一 教授 博士（工学）
Tsumori Shinichi

研究キーワード　リメディアル教育、学習者モデル
研究テーマ　データサイエンス教育のための学力を獲得する数学独習システムの開発

根地嶋 誠 教授 博士（リハビリテーション科学）
Nejishima Makoto

研究キーワード　運動器、成長期、スポーツ
研究テーマ　運動器疾患やスポーツ傷害の発生メカニズム・予防等の研究

矢部 広樹 准教授 博士（リハビリテーション科学）
Yabe Hiroki

研究キーワード　腎臓リハビリテーション
研究テーマ　慢性腎不全や血液透析など生活期の内部障害に対する理学療法

大城 昌平 教授 博士（医学）
Ohgi Shohei

研究キーワード　人間発達学、神経行動発達学
研究テーマ　新生児・乳幼児の発達と発達ケア及びリハビリテーション

有薗 信一 教授 博士（健康科学）
Arizono Shinichi

研究キーワード　呼吸心臓リハビリテーション
研究テーマ　呼吸心臓リハビリテーション、集中治療領域、慢性疼痛

※2024年5月時点の在籍教員と研究内容を紹介しています。2025年度は変更となる場合があります。

吉本 好延 教授 博士(学術)
Yoshimoto Yoshinobu

研究キーワード 転倒・身体活動・行動変容
研究テーマ 要介護高齢者の介護予防を目的とした学際的研究

俵 祐一 准教授 博士(医学)
Tawara Yuichi

研究キーワード 呼吸リハビリテーション領域
研究テーマ 呼吸器疾患等に対するリハビリテーションおよび疫学的研究

伊藤 信寿 教授 博士(学校教育学)
Ito Nobuhisa

研究キーワード 発達支援、特別支援教育
研究テーマ 支援を必要とする子どもたちと支援者に対する実践と研究

藤田 さより 准教授 博士(リハビリテーション科学)
Fujita Sayori

研究キーワード メンタルヘルス、就労支援
研究テーマ メンタルヘルスや障害者の就労支援に関する研究

新宮 尚人 教授 博士(保健学)
Shingu Naohito

研究キーワード 作業活動、自立支援、再発予防
研究テーマ 作業活動を用いた精神障害者の自立支援・再発予防

泉 良太 教授 博士(保健学)
Izumi Ryota

研究キーワード QOL、臨床研究、臨床教育
研究テーマ リハビリテーション領域における健康関連QOLの検証

小坂 美鶴 教授 博士(感覚矯正学)
Kosaka Mitsuru

研究キーワード 定型発達児、言語障害児、言語発達
研究テーマ 言語発達障害児の語彙・統語・談話の発達と評価に関する研究

谷 哲夫 教授 博士(保健学)
Tani Tetsuo

研究キーワード 失語症、改善要因、吃音、治療法
研究テーマ 失語症の予後予測と改善要因、吃音児の自己肯定感と吃音の進展

大原 重洋 教授 博士(リハビリテーション科学)
Ohara Shigehiro

研究キーワード 聴覚障害、ナラティブ、補聴器
研究テーマ ナラティブのマクロ構造の機序の解明と、支援法の開発

黒崎 芳子 准教授 博士(学術)
Kurosaki Yoshiko

研究キーワード 失語症、高次脳機能障害
研究テーマ 失語症者の言語機能と発話感覚、自律神経活動に関する研究

柴本 勇 教授 博士(学術)
Shibamoto Isamu

研究キーワード 摂食嚥下障害、発声発語障害
研究テーマ 摂食時の大脳制御と口腔運動の解析とリハビリテーション

佐藤 豊展 准教授 博士(リハビリテーション科学)
Sato Atsunobu

研究キーワード 摂食嚥下リハビリテーション
研究テーマ 摂食嚥下障害の評価・訓練法の開発および予防に関する研究

修了生の研究テーマ

博士前期課程	●ペインクリニックにおける慢性疼痛患者の痛みの自己効力感と身体機能・精神機能に関する研究
	●高齢保存期CKD患者における非監視下運動が身体機能に及ぼす効果
	●高校野球選手における投球時の肘関節外反ストレスと遠投の実施方法及び投球フォームの関係性
	●心臓外科手術後患者における炎症と活動量低下による筋萎縮のメカニズム解明と身体機能の関係性
	●パーキンソン病患者のCough Peak FlowとMaximum Phonation Timeの関連性
	●間質性肺疾患患者の骨格筋組織酸素飽和度の有用性および酸素療法による骨格筋酸素運搬機能に関する研究
	●視覚障害乳幼児の子育て支援における作業療法士の介入の現状と役割
	●回復期リハビリテーション病棟入院患者の不安が健康関連QOLとADLに与える影響ー前向きコホート研究ー
	●表面温度が異なる食物摂取時の口腔運動の相違
	●言語聴覚士の卒後教育を目的としたSNSの開発
博士後期課程	●急性期炎症性疾患患者に対する骨格筋組織酸素飽和度による筋異化評価法の開発
	●在宅要介護高齢者の慢性疼痛と転倒関連外傷の関連性の実証
	●認知症の人の視点に立った社会参加を支援する作業療法の実践的介入の提言
	●課題指向型の作業に取り組むことによるアウェアネスの変化過程 ー就労を目指す高次脳機能障害を有する者を対象とした複線経路等至性アプローチ(TEA)による分析ー
	●フローチャートを用いて分類した急性期病院入院中嚥下障害患者の嚥下造影検査指標分析

修了生の声

大学院の学びで得た知識や技術を患者さんや地域社会に還元していきたいです

大学院では研究に必要な知識だけでなく、研究過程で直面した課題に対する解決力や人間性も学ぶことができました。今後は、大学院で得た知識や技術、研究成果を患者さんやスタッフ、地域社会に還元しながら、自身の研究分野のさらなる発展に努めていきたいと思います。

博士前期課程

田畑 吾樹さん
2023年度 修了
勤務先：
聖隷佐倉市民病院

思考力や表現力、発信力などを養うことができました

大学院での活動を通して研究や臨床における専門的知識はもちろん、思考力や表現力、発信力など社会で活躍するために必要な多くの力を養うことができました。目標としていた大学教員としての道も拓くことができたため、今後はさらに多様な領域から理学療法の発展に寄与していきたいです。

博士後期課程

本田 浩也さん
2023年度 修了
勤務先：びわこリハビリテーション専門職大学

留学生の声

母国の高齢者の医療保健福祉に貢献したい

この度の留学では、日本の高齢者の地域包括ケアシステムと地域看護及び地域リハビリテーションについて学びました。論文作成では、中国と日本の制度の違いなどについて先生方や他の院生とディスカッションし、多様な視点で物事を探求することができました。修了後も学びを続け、母国中国の高齢者の医療保健福祉に貢献します。

博士前期課程
(外国人留学生)

陳 嵐さん
2022年10月 入学
2024年9月 修了見込み

社会福祉学研究科

博士前期課程
■標準修業年限／2年（長期在学コースの場合3年）
■学位の種類／修士（社会福祉学）

博士後期課程
■標準修業年限／3年（長期在学コースの場合4年）
■学位の種類／博士（社会福祉学）

concept 1 社会的ニーズの変化に対応し高度な知識と広範な視点をもつ社会福祉専門職の養成

concept 2 保健医療福祉の融合と連携の実現をめざす

研究科長メッセージ

研究科長 川向 雅弘

現実の社会福祉課題に応える高度専門職者の育成

社会福祉学は「実践の学」といわれています。社会福祉学研究科では、社会福祉を科学的に学ぶための鋭敏な時代感覚、社会問題への深い洞察力を養い、現実の社会福祉課題の本質に切り込んでいく力を身につけることを目的としています。博士前期課程では、多様化する社会福祉課題に対応できる高度専門職者の育成を、博士後期課程では、専門領域の先端的研究動向を展望し、社会の要請に応える研究能力を養うことをめざしています。

社会福祉学研究科 学びの特長

社会福祉学研究科の特長は、大学院担当教員の豊富な実践経験を生かした研究指導が展開される点です。大学院生が身を置く実践現場の「臨場感」や「ことば（実践価値に対する共通言語）」を理解できることが、実践理論を研究するにあたって、大学院生との間に研究上の信頼関係をもたらします。また、複数教員による多角的な視点を重視し、大学院生が安心して研究できるように、複数指導教員体制を充実させる取り組みを進めています。

教育課程

今日の生活問題は少子・高齢化の進展と相まって、生活・社会環境が複雑化し、社会福祉ニーズが高まっています。生活相談や自立支援、福祉のまちづくり、政策・制度の改善等において、専門的で指導的な役割を果たせる高度な社会福祉専門職の育成が急務です。社会福祉学研究科では、複雑化し多様化した社会福祉課題に応える高度な専門職と研究者養成の教育課程を重視しています。

博士前期課程

	科目	区分	単位数
共通科目	12科目から選択（p.22）	3研究科共通	必修6単位と、共通科目・基盤科目から3科目6単位以上
基盤科目	社会福祉原論※、ソーシャルワーク論※、福祉思想 社会福祉政策論、社会福祉実践研究※、社会福祉実習 ※必修科目	社会福祉学研究科共通	
専門科目	専攻する領域の特論、特論演習	各領域	6単位
	特別研究	個別課題	8単位
		修了に必要な単位数	30単位以上

博士後期課程

	科目	区分	単位数
共通科目	6科目から選択（p.22）	3研究科共通	5単位以上
専門科目	専攻する領域の特講、特講演習	各領域	3単位
	特別研究	個別課題	6単位
		修了に必要な単位数	14単位

領域の紹介

■社会福祉・ソーシャルワーク領域

社会福祉の歴史と現状、さらに、社会福祉専門職の成立にみる社会背景や動向等を分析・考察し、社会福祉とそれを実践する専門職の機能と役割、特徴について研究します。また、社会福祉実践の基盤となるソーシャルワークの価値・知識・方法を、ミクロ・メゾ・マクロレベルにわたって体系的に理解した上で、現代社会におけるソーシャルワークの実践課題と展開方法について探求します。

■介護福祉領域 ※

介護福祉学の構築に向け、介護福祉実践の歴史を紐解くことや、介護実践及び思想、国内外の研究動向を学び、社会的背景や研究方法、実践方法などについて検討、考察します。介護福祉は、制度や地域課題、利用者との社会関係の上に成り立つ専門職による支援であり、医療職らと協働するのが大きな特長です。これらを踏まえて、介護福祉の思想と方法論を探求します。

※博士後期課程は高齢者福祉領域

■子ども家庭福祉領域

子ども家庭福祉領域では、子どもや家庭が抱える問題と支援ニーズを理解し、適切な支援を行うための理論や実践について研究します。特に、保健・医療・教育等の他領域の知識を含めた総合的な視点から、子どもの権利条約を基に子どもの最善の利益を実現させていくための保護者や国および自治体の役割を明らかにし、子どもと家庭を地域で支える仕組みの理論化と具体的実践方法を探求します。

教員紹介

※2024年5月時点の在籍教員と研究内容を紹介しています。2025年度は変更となる場合があります。

■社会福祉・ソーシャルワーク領域　■介護福祉領域　■高齢者福祉領域　■子ども家庭福祉領域

川向 雅弘教授 修士(社会福祉学)
Kawamukai Masahiro

研究キーワード　メゾレベルのソーシャルワーク
研究テーマ　「地域を基盤としたソーシャルワーク」の実践価値の研究

佐藤 順子教授 修士(社会福祉学)
Sato Junko

研究キーワード　地域福祉の主体・対象・方法
研究テーマ　住民主体の地域福祉組織とその支援のあり方に関する研究

福田 俊子教授 博士(人間福祉学)
Fukuda Toshiko

研究キーワード　スーパービジョン、人材養成
研究テーマ　社会福祉専門職の自己生成に関する研究

大場 義貴教授 博士(小児発達学)
Oba Yoshitaka

研究キーワード　子ども・若者のメンタルヘルス
研究テーマ　不登校や神経発達症、自殺やひきこもりに関する社会疫学研究

佐々木 正和准教授 修士(人間福祉学)
Sasaki Masakazu

研究キーワード　精神障がい者への権利擁護
研究テーマ　精神障がい者の人権擁護、地域移行、生活支援の研究

野田 由佳里教授 博士(社会福祉学)
Noda Yukari

研究キーワード　外国人介護労働者・認定介護福祉士
研究テーマ　介護職の継続就労、有能感や所属意識をもたらす意識変容

篠﨑 良勝 准教授 修士(教育学) Shinozaki Yoshikatsu	研究キーワード	観察、ハラスメント、人材育成
	研究テーマ	介護福祉職における専門職的人材育成プログラムの開発
藤田 美枝子 教授 博士(臨床心理学) Fujita Mieko	研究キーワード	子どもの権利擁護、子ども虐待の予防
	研究テーマ	社会的養育の子どもと家庭への支援および子どもアドボカシーの研究
太田 雅子 教授 修士(教育学) Ota Masako	研究キーワード	向社会性・自己肯定感の育ち
	研究テーマ	アクションリサーチによる向社会性を育む保育・教育の方法
泉谷 朋子 准教授 博士(社会福祉学) Izumiya Tomoko	研究キーワード	ひとり親家庭、保護者支援
	研究テーマ	養育に課題をかかえる保護者への支援に関する研究
内山 敏 准教授 博士(小児発達学) Uchiyama Satoshi	研究キーワード	心理アセスメント、発達支援
	研究テーマ	外国にルーツのある子どもの心理的困難性把握に役立つ心理アセスメント

修了生の研究テーマ

博士前期課程	●医療ソーシャルワーカーの実践能力の変容と自己覚知の関連に関する研究
	●介護予防・生活支援サービス事業における「B型サービス」推進上の課題に関する研究
	●小学校教員のスクールソーシャルワーカーとの連携経験がミクロ領域・メゾレベルの思考や行動に与える効果
	●小規模多機能居宅介護における医療依存度の高い利用者の受け入れの現状と課題
	●介護労働者の賃金及び職務内容が就労継続意思に及ぼす影響ー介護老人福祉施設の調査からー
	●保育所におけるネグレクトケースへの支援に関する研究―現場保育士の保育ソーシャルワーク実践への意識化―
	●A市の保育現場における巡回相談に関する研究ー気になる子供と保護者への支援ー
博士後期課程	●公的扶助研究運動における当事者性の課題ー生活保護ソーシャルワーカーと公的扶助政策の狭間で
	●身体障害者への職業リハビリテーションの実践史ー戦後から高度経済成長期までに労災病院が果たした役割ー
	●先天性心疾患患者とその家族への医療ソーシャルワーク機能に関する研究ー先天性心疾患分野の医療ソーシャルワーカーの実践からの考察ー
	●学校現場における性的虐待への対応と役割についての研究ー現状と課題、教職員の意識についての検討ー

修了生の声

自分の考えを発言し、他の院生と議論をしながら学びを深めていくことができました

学部を卒業する際から、「いずれは大学院に進学したい」と考えていました。転職をし、行政職員になってからは、行政の社会福祉士の在り方がわからず、苦しい日々が続きました。そんなときに佐藤教授より「先人の教えに触れること」の大切さを教えていただき、進学を決意しました。大学院では自分の考えを発言し、他の院生と議論をしながら、学びを深めていくことができました。活躍する場所は違っても、一人ではない。それぞれの場所でみんな頑張っているのだと認識することができ、とても心強く思いました。これからは大学院での学びを生かし、湖西市のみなさんにとって、より暮らしやすいまちになるよう、一端を担っていきたいと考えています。

博士前期課程

都筑 万由美さん

2021年度 修了

勤務先：湖西市健康福祉部高齢者福祉課［主任社会福祉士］

研究の流れ

看…看護学　リ…リハビリテーション科学　社…社会福祉学
※アイコンがないところは全研究科対象

博士前期課程

1年次 / 2年次 / 3年次

春 / 秋 / 春 / 秋 / 春 / 秋

2年コース

出願前　関心のある領域の担当教員に相談 ▶ 入学 ― 研究計画検討会 リ ― 研究計画検討会 ― 研究計画検討会 看 社 ― 論文検討会 社 ― 論文提出 ― 論文審査・最終試験 ― 合格論文発表会 ▶ 学位授与・修了

3年コース

出願前　関心のある領域の担当教員に相談 ▶ 入学 ― 研究計画検討会 ― 研究計画検討会 ― 研究計画検討会 リ ― 研究 ― 論文検討会 社 ― 論文提出 ― 論文審査・最終試験 ― 合格論文発表会 ▶ 学位授与・修了

○研究計画検討会を経て研究計画書を提出・承認後、倫理審査、研究、論文作成を行う。

博士後期課程

1年次 / 2年次 / 3年次 / 4年次

春 / 秋 / 春 / 秋 / 春 / 秋

3年コース

出願前　関心のある領域の担当教員に相談 ▶ 入学 ― 研究計画検討会 ― 研究 ― 論文内容発表会 ― 予備審査 ― 論文提出 ― 論文審査・最終試験 ― 合格論文発表会 ▶ 学位授与・修了

4年コース

研究 ― 論文内容発表会 ― 予備審査 ― 論文提出 ― 論文審査・最終試験 ― 合格論文発表会 ▶ 学位授与・修了

○研究計画検討会を経て研究計画書を提出・承認後、倫理審査、研究、論文作成を行う。

学びを支えるサポート体制

夜間・土曜日を中心としたカリキュラムと遠隔システム

講義・研究指導は夜間や土曜日など、可能な限り有職者の方が受けやすい時間帯に設定しています。また、講義形式の授業を遠隔システムにより受講できる機会も設けています。

〈授業時間〉

月・火・木・金曜日	
7時限目	18:20〜19:50

水曜日	
6時限目	18:20〜19:50

土曜日	
1時限目	9:00〜10:30
2時限目	10:40〜12:10
(昼休み)	12:10〜13:00
3時限目	13:00〜14:30
4時限目	14:40〜16:10
5時限目	16:20〜17:50

各種制度

それぞれの状況に合わせて学ことができるよう、各種制度を設けています。

長期在学コース	博士前期課程は2年間の課程を3年間で、博士後期課程は3年間の課程を4年間で修了する「長期在学コース」を設けています。この制度により入学を希望される場合は、出願時に申し出が必要です。
入学資格審査	学士の学位を取得していない方で、修士の学位を取りたいと考えている方を対象とした制度です。短期大学、専門学校等を卒業後、他の教育機関での学修経験や一定の臨床経験、あるいは教職経験を経て業績等がある方には、学士の学位がなくても入学資格審査を受けて受験の機会が得られる制度があります。この制度を利用して受験する場合は、出願前に入学資格審査が必要になります。
科目等履修	大学院入学資格のある方を対象に大学院の正規の授業を開放しています。科目等履修生は講義科目の中から履修科目を選択できます。受講して修得した科目の単位は、入学後に、修了に必要な単位の一部として認定されます。入学前に本学の科目等履修生として修得した単位は、正規学生として入学した後、既修得単位として認定しています。また、その単位修得に要した履修料を授業料から減免します。
研究生制度	大学院入学資格のある方を対象に、興味のある研究分野の教員と共に1年間研究に携わることができる制度です。大学院での学修を始める前に、本学での研究内容を知ることができます。
院生研究費	大学院生には博士前期課程、博士後期課程とも在学中に使用できる研究費があります。

聖隷クリストファー大学同窓会 研究助成金（2022年度開始）

大学院生がより充実した研究を展開できる体制を整え、本学や保健医療福祉・教育の発展に寄与することを期待して研究助成金を支給しています。応募書類の提出、審査の上、助成額を決定します。

〈採択実績〉 2023年度 8件／2022年度 4件

応募資格：
聖隷クリストファー大学大学院博士前期・後期課程に在籍する大学院生

助成金額：
1件あたり上限20万円（年度で3件まで、支給後3年以内に成果物等を提出）

※その他、応募には条件があります。詳細は「研究助成金募集要項」をご確認ください。

詳細はこちら▼

［看護学研究科］「職業実践力育成プログラム（BP）」に認定されています

看護学研究科看護学専攻博士前期課程の以下の3コース（2年課程）が文部科学省の令和5年度「職業実践力育成プログラム（BP）」に認定されています。

- 修士論文コース
- 高度実践看護コース専門看護師プログラムがん看護学領域
- 高度実践看護コースプライマリケアNPプログラム

Brush up Program for professional

「職業実践力育成プログラム」（BP）とは

大学・大学院・短期大学・高等専門学校におけるプログラムの受講を通じた社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を目的として、大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを文部科学大臣が認定するものです。

［看護学研究科］「一般教育訓練給付制度厚生労働大臣指定講座」に認定されています

看護学研究科の一部課程は、2024年4月より「一般教育訓練給付制度厚生労働大臣指定講座」となりました。一定の条件を満たした上で、本学での学びを経て修了が認められた場合は、本人の申請により受講者本人が支払った教育訓練経費※の2割に相当する額（上限10万円）がハローワーク（公共職業安定所）から支給されます。

2024年度入学生対象課程	看護学研究科博士前期課程 高度実践看護コースプライマリケアNPプログラム（2年課程）
	看護学研究科博士前期課程 修士論文コース・高度実践看護コース専門看護師プログラム（長期在学コース）（3年課程）

※教育訓練経費とは、入学料＋受講料（1年分）を合計した額となります。
課程ごとに異なりますので詳細は明示書をご確認ください。

充実した学修・研修環境

保健・医療・福祉施設に囲まれた学修環境

聖隷グループは、社会福祉法人聖隷福祉事業団をはじめとする複数の法人からなり、国内外の300カ所以上で保健医療福祉・教育施設を運営しています。大学周辺には、20以上の医療・福祉施設が集まっていることから、施設との連携・協働により、研究活動を進めることができます。また、聖隷グループの総合病院・施設において第一線で活躍している医師や専門職者が担当する講義や演習もあり、最新の情報に基づいた研究を進めることができます。

研究科の枠を超えて学ぶ共通科目

現場において緊密な連携・協働が求められる、3研究科の大学院生が共に学ぶことができる共通科目を設けています。博士前期課程では12科目を設け、関連の深い諸科学について理解を深めるとともに、研究力を高めます。博士後期課程では、6科目の中にインタープロフェッショナルワーク関連の2科目を配置し、保健医療福祉の連携をはかり総合的なチームアプローチの推進に資する研究・教育を展開していくことで、実務者としての高度な知識と指導力を養います。

博士前期課程

- キリスト教倫理特論
- 健康増進・医療経済政策特論
- 実験的研究法
- 人体構造・機能学特論
- 教育方法学特論
- マネジメント論
- 保健医療倫理学特論
- 臨床疫学特論−EBM実践入門−
- 社会調査特論
- 心理学特論
- 保健科学英語特論
- 教育工学特論

博士後期課程

- インタープロフェッショナルワーク特講（必修）
- インタープロフェッショナルワーク演習
- リーダーシップ特講
- 保健科学研究方法特講 I
- 保健科学研究方法特講 II
- 保健科学英語特講

いつでも利用できる大学院生研究室・図書館

5号館5・6階を大学院エリアとし、ゼミ室のほか、研究室・談話室・休憩室などの施設・設備が整っています。特に大学院生研究室は24時間セキュリティシステムに守られ、平日夜間や休日を問わず、安全かつ快適な環境で自由に学修・研究することができます。

図書館も5号館にあり、大学院生は図書館閉館時でも必要に応じて図書館に入退出し、資料閲覧、図書の貸出、文献複写等の利用ができます。また、図書館の機能を十分に活用できるために、各データベースの講習会を開催。約12万冊の図書と約4千種の雑誌を所蔵しています。

Topics

国際共同研究

本学は、国外の11の高等教育機関と交流協定を締結しています。大学院では、交流協定校と人的交流に加え共同研究に力を入れ、国際社会に貢献できる研究者や高度専門職者の育成をめざしています。2018年度から、本学をハブとした将来の国際共同研究・国際共同活動を推進することを目的として「聖隷国際研究コンファレンス（Seirei International Research Conference）」を開催しています。交流協定校を中心に毎年多くの国々の研究者、学生、教育関係者が参加し、ネットワークを広げ、ディスカッションを通じて研究交流を深めています。本学の大学院生も英語による発表を行うことで、国内外の保健医療福祉・教育分野の専門職者・学生と互いの知識・知見・活動を共有し、意見交換を行う場を創出しています。

また、交流協定校等と意見交換を行う場として「グローバルパートナーズサミット」を設け、研究・教育交流を検討し、推進しています。国際交流担当の教職員が横のつながりを作り、連携を強め、今後の国際交流活動を発展するためのきっかけになることを期待しています。

交流協定校はこちら▼

開会式

プレゼンテーション

リカレント教育

聖隷クリストファー大学および大学院は、卒業生・修了生が保健医療福祉・教育の専門職者として活躍し続けるために一層専門性を向上させ、最新の知識・技術を身につけていく支援をしています。ホームページでは、どなたでもご参加いただける公開講座をはじめ、勉強会や研修会の案内を随時、掲載しています。

リカレント教育についてはこちら▶

アクセス

JR浜松駅からバスでお越しの方

JR浜松駅北口バスターミナル、遠州鉄道バス15番のりば
「聖隷三方原病院経由気賀・三ヶ日行」に乗車。
「聖隷三方原病院」下車（所要時間約45分）、徒歩約3分。

浜松西ICからお車でお越しの方

東名高速「浜松西IC」より浜松環状線を東へ約3km。
「葵町」交差点を左折し、北へ約2km。
「大谷バス停」交差点を右折し、東へ約1km。
「遠州栄光教会」交差点右折後すぐ。所要時間約10分。

シンボルマークの由来

外側の二重円は、最後の晩餐でキリストが弟子たちの足を洗った「たらい」を表現。内側の3つの円は、聖隷グループが使命とする医療（赤）、福祉（緑）、教育（青）を象徴。中央の十字架はキリスト教を示し、すべての事業がキリスト教会の中から始まったことを表しています。故アルバート・アットウェル博士（アメリカ人、1978～1981年聖隷学園に奉職）により、1980年に聖隷のシンボルとして考案されました。

聖隷クリストファー大学
SEIREI CHRISTOPHER UNIVERSITY

- **看護学部**［看護学科］
- **助産学専攻科**
- **リハビリテーション学部**［理学療法学科・作業療法学科・言語聴覚学科］
- **社会福祉学部**［社会福祉学科（ソーシャルワークコース・介護福祉コース・福祉心理コース）］
- **国際教育学部**［こども教育学科］
- **大学院【博士前期課程】【博士後期課程】**
  ［看護学研究科／リハビリテーション科学研究科／社会福祉学研究科］

聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校

聖隷クリストファー大学附属クリストファーこども園

お問い合わせは【入試・広報センター】へ

〒433-8558　静岡県浜松市中央区三方原町3453
【TEL】053-439-1401　【HP】https://www.seirei.ac.jp

UNIVERSITY ACCREDITED 2024.4～2031.3

2024年3月、（公財）大学基準協会の行う大学認証評価において、大学評価の基準に適合しているとの認定を受けました。